

令和4年1月 市長定例記者会見

令和4年1月4日(火)

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただ今より令和4年1月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思っております。

なお、ご質問の際は、お手数ですが、まず挙手をお願いいたします。そして、ご自席のマイクのスイッチを入れていただきまして、ご質問の後はお切りいただきますようお願い申し上げます。

終了は14時30分を予定しております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 現在、オミクロン株が増えてきており、予断を許さない状況となっておりますが、少しずつ日常生活や経済活動を取り戻していきたいと、そういう仕掛けをしていきたいというふうに考えております。

また、経済対策としまして、敦賀市経済対策世帯給付金事業実施本部というのを設置させていただきました。これは2つの政府のコロナ克服・新時代開拓のための経済対策による住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金事業と、子育て世帯への臨時特別給付事業の2つの事業を迅速に進めていくためのものであります。一部の給付は開始しておりますが、引き続き円滑に給付できるよう努めてまいります。

あと、ほかに発表項目が2つありますけれども、市民の皆さんが安全で安心して暮らせるような、また楽しく暮らしていけるような敦賀市というのを目指していきたいというふうに考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願いいたします。

【市長】 では、よろしくお願いいたします。事業発表は2つでございます。

1つ目は、北陸新幹線敦賀駅のご当地発車メロディー投票に係るプレゼント当選者についてであります。

2024年春の北陸新幹線敦賀開業に向けまして、敦賀駅の出発ホームで使用されます発車メロディーにつきまして、市民の皆様や敦賀市を訪れる方々に親しみを持ってもらうために1次選定をしまして、15曲を選びました。その中で2次選定として全国の皆様に投票をお願いしたところ、非常に多くの皆様からご応募をいただいたところです。改めて、ご応募いただきました全国の皆様や市民の皆様に感謝申し上げます。

投票いただきました2,040票から厳正な抽選の結果、敦賀真鯛の鯛めしセットの当選者10名が決定しましたので、発表させていただきます。当選者10名につきましては、東京都江戸川区在住の石松義和様ほか9名ということで、お手元に配付の資料のとおりですので、よろしくお願いいたします。

今回の発車メロディーにつきましては、大変多くの方々に1回目の応募、2回目の投票をいただいたことで、北陸新幹線敦賀開業への関心の高さや開業機運の盛り上がりを強く感じているところであります。

今後も、整備新幹線の中で最大級となります北陸新幹線敦賀駅につきましては、市民の皆様や全国の皆様に親しまれ、かつ魅力的なものとなりますよう、鉄道・運輸機構やJRと協力して取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

それから、2つ目の項目でございます。敦賀消防団出初式の実施についてであります。

消防団員の士気の高揚を図るとともに、近代消防設備と精錬された消防団員の意気を公開することにより、市民の防火意識を高めることを目的としまして、令和4年1月10日月曜日、祝日ですが、新春恒例の出初式を挙行いたします。

また、当日は、きらめきみなと館イベントホールにおきまして、敦賀消防団つるが鳶隊によるはしご乗り演技も実施しますので、ぜひ楽しみにご覧いただきたいと思っております。

発表項目は以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、発表いたしました項目につきましてご質問をお受けしたいと思っております。最初に幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 発表項目1番目の発車メロディーの投票のことなんですけれども、実際、募集してみて、結果も「扇の要」というのが一番になってということで、そのあたりの市長の受け止めをお聞きしたいということと、あと、実際に選ばれたものがどういう形で使われるのか。実際の新幹線が発車するときには必ずかかるような形になるのか、その辺もうちよっとなら具体的に教えていただけるとありがたいです。

【市長】 今回、上位5曲ということで選定したわけなんですけれども、気持ちとすると5曲順番に流してもらえるのが一番うれしいですけれども、1曲だけしか流れないということですので、この中から1曲を選んで流すことになります。

また、票の集まり方としまして、市内の方が多く得票とか、全国的に散らばって得票をいただいているとか、そういう曲自体の特性もありますので、そういうところも勘案しながら選んでいきたいと思っております。

敦賀市だけじゃなくて、JRさんとかいろんなところと協議して選んでいきたいと思っております。

できるだけ敦賀らしい歌を選んでいただきたいなというふうに思っております。

【秘書広報課長補佐】 ほかに、幹事社さん、よろしいでしょうか。

〔なし〕

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社にお伺いいたします。発表項目につきましてご質問ございましたら、挙手のほうをお願いいたします。

〔なし〕

【秘書広報課長補佐】 それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと移ります。

幹事社さんのほうからこれもお願いいたします。

【記者】 原子力関係で3点ほど教えてください。

年末、市長は文科省に行かれて、もんじゅのナトリウム処理に関してかなり具体的なスケジュールの報告があったと思うんですけれども、改めて受け止めに教えてください。

【市長】 本来は敦賀で受けるべき説明だったと思うんですけれども、日程的に出張のタ

イミングでしたので東京のほうで受けさせていただきますが、もんじゅとふげんにつきまして具体的な話をいただいたことを思っております。

もんじゅにつきましては、これまで早期に具体的なスケジュール等の見通しを示すようお願いしてきましたけれども、今回、具体的に進展のある報告があったというふうを受け止めています。また、引き続き国内外の関係機関と調整を進めていただくということで、年度内のもんじゅ関連協議会でさらに進展した報告があるというふうを考えています。

【記者】 あと別件なんですけれども、日本原電に関して2点ほど教えてください。

敦賀2号機の審査に関しては、20年にデータの書換えが見つかって、今年の8月以来、正式に審査会合が中断するということが続いています。

改めてなんですけれども、年の初めということで、市長ご自身の市にとっての発電所の位置づけ、個人的な見解というか、産業の複線化も含めて、お考えがあれば教えてくださいということが一つ。

2点目は、再稼働の審査再開に向けて、原電さん、規制委さんそれぞれに望むことがあれば教えてください。

【市長】 日本原電の2号機の問題につきましては、一旦停止しました。お互いに書類を精査し直して正式なものをきちんと出したほうが、ああでもないこうでもないという話をしているよりも前に進むんじゃないかなということで、いいタイミングになったのではないかなというふうに思っています。その次のことに対してはしっかりと取り組んでいただいて、間違いのないものを出していただいて、信頼回復をしていただくということを望んでいます。

それから次に、規制委について望むことですが、審査につきましても、この間もちょっと話をお聞きしてきましたけれども、規制に合ったものを、規制に対して合格するかどうかというのを私たちは判断するんですというお話なんです。ただ、判断したものに対して安全だということをしっかりと広報してほしいんですという、「それは私たちの仕事ではない。私たちは基準に適合するかどうかの答えを言うだけなんです」と言われました。事業者が資料などをつくらなくてはいけない時間というのもありますし、審査する時間もありますから、審査する時間だけでも教えてくださいということも言いましたけれども、それについても、「いつ頃終わるかということに対しては事業者のほう詳しく知っているんだから事業者に聞いたらどうですか」ということでした。本来、規制委員会は、半年程度で結果を出すと最初は言っていたのがどんどん延びていますので、しっかりとそこについてはスケジュール感を持って進めていただきたいというふうに思っています。

【記者】 前提としての発電所の位置づけのお考えというのはありますか。やはり早期に動かすべきものであると。

【市長】 今の世界の潮流もそうですけれども、地球温暖化ということが非常に大事なことになってきていますし、ゼロカーボンということがその手段として必要だというふう感じています。その中で、原子力発電という技術を持っている日本というのは、それを動かさないのはいけないと、動かさなくてはいけないと考えていますので、しっかりと課題をクリアして前に進んでいただきたいというふうに考えています。

【記者】 最後、地場産業としてはどのように捉えられていますか。

【市長】 原子力産業は地場産業の基幹であることには変わりありませんが、やはり止まっていることで少しずつそれに携わっている人たちは減ってきているというふうに思います。しっかりと前向きに進めていくというのが国の方針で出てくれば、また違ったものが見えてくるんじゃないかと思えます。

【記者】 続いてなんですけれども、年末に第2回の原子力立地地域の共創会議がありました。市長も参加されて、いろいろと具体案をお聞きになりながら意見も申し上げられていたところかなというふうに思うんですけれども、嶺南地域にとっていろんな策というか案が多く出されていて、これは個人的にですけれども、全てがうまくいけば嶺南地域の発展にもつながるのかなというふうにも思うんですが、あまりにも多い部分もありますし、その辺をどういうふうに受け止められているのかというのをお聞きしたい。

【市長】 時間があまりなかったので大分早口で私のほうも申し上げましたけれども、関西電力さんとか北陸電力さんと一緒にやりながら、水素を使ったいろんなカーボンニュートラルの次の産業ということを目指していきたいというふうに考えています。

その中で、いろいろ課題はあるでしょうけれども、少しずつできそうなものもありますので、それを一つ一つ形にしていくのがあの会議の中の世界ですし、私たちの目標、敦賀市の目標でもあります。

ただ、例えば、原子力発電所を使って夜間電力で水素をためて仮想電力発電をしようと思っても、敦賀だけでできる話ではありませんし、当然、太陽光発電も使わなくては行けませんからメガソーラーも使わなくては行けないでしょうし、そうすると、いろんな市町、嶺南全体のつながりの中でやっていくことになると思います。

デジタルトランスフォーメーションという形もありますので、それをどうやって近未来的な生活というか社会を実現していくのか。もしくは電気が再エネ由来の電気ですよということを示すことで、企業とか個人の生活のグレードを上げていくということもありますので、そういうところをどうやってお示しできるかということは今後みんなで詰めていくことになると思います。

【記者】 では、確認させていただくと、市長が持っている敦賀市の案として、関電さんの原子力由来であったりとか、そういうところから水素発電というところをつなげていきたいという構想があって、それを実現していくためには、国はもとより嶺南市町との連携というのが必要になってくるので、そういうものを詰めていく場としてもこの共創会議というものの中で進めていきたいというお考えということよろしいでしょうか。

【市長】 ちょっと重さを間違えましたけれども、基本的に、おおい町とか高浜町にメガソーラーがあります。メガソーラーは不安定な電源ですので、一旦電気としてためて蓄電をして、それを出していくと。それで安定した電源にしていくというのも一つの流れですし、もう一つは、先ほどのどこでつくった電気なのかというのをトレーサビリティじゃないですけれどもトラッキングすることで、この電気はCO₂を出していないものですよということを示すことで企業とか人とかを呼んでこれたらなど。その先にあるのが原子力発電の中で夜間電力とかを使った水素エネルギーで蓄電する。そういう方法があったらいいなというふうに思っています。

【記者】 その他のことについても、観光面であるとか、もんじゅサイトのことについてとか、様々出ていたかなというふうに思うんですが、その辺、いろいろ出された中で、こ

れからもうちょっと具体的に策が出てくる工程にはなってくるのかなと思うんですが、今後、共創会議に期待することとか、その辺はどういうふうに考えられていますでしょうか。

【市長】 もう一つは試験研究炉の話が出ていたと思いますけれども、試験研究炉というのがどれだけ地域、敦賀市に経済的にも人材育成としても効果があるのかということを示していただいた上での試験研究炉でないといけないというふうに思っています。

もう一つは、今の技術革新が結構進んでいますので、その試験研究炉をもし造ったとして、それが本当に最先端のものなのかということですよ。そういうことの議論も進めていただきながらやっていかないと、出来上がったわ、もう古くて要らないんですというようなものにならないようにしてもらわないといけないと思っています。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社にお伺いいたします。ご質問ございましたら、挙手のほうをお願いいたします。

【記者】 今の質問に関連するんですけども、確認なんですけれども、水素でいわば電気をためるといふかエネルギーをためるといふことで、メインはどっちなのかなというのがちょっと。再エネなのか、あるいは原子力なのか。従来の敦賀市のイメージというのはやっぱり原子力の街みたいなのところがありました。それに対して、水素というのは今までは色がついていなくて、余剰の電力をためる手段としていいものである可能性があるなどみんな思っていると思うんですけども、そこで敦賀市が一番やりたいのは原子力を使うことなのか、あるいは再エネを使うことなのか。今市長が言いかけたようにも思うんですけども、そのあたりはどう整理したらいいのでしょうか。

【市長】 敦賀市がずっとやってきていますのは、メガソーラーでできた電気を水素でためましよう。それでやっていきたいと思いますという話になっていますが、一つ原子力でもできるんじゃないかということも可能性として出てきましたので、そこについてもトライをしたいなど。ですから、どちらかというわけじゃなくて、再エネもそうですし原子力もそうです。どちらもやりますよということになるろうかと思えます。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

【記者】 今の話に関連してなんですが、そこにあえて原子力を由来とするということに選んだというのはどういう狙いがあるのでしょうか。

【市長】 敦賀市が原子力をしたいというわけじゃなくて、そういう可能性もあるということ。今から技術を磨いていくという話題の中にあるという話です。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

[なし]

【秘書広報課長補佐】 それでは、これをもちまして1月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

午後 1時50分 終了